

令和元年度 川崎市立中学校 学習状況調査 概要



◎ 調査の概要

1. 調査の目的

学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標および内容の「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする。

2. 調査の内容

○国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

4. 調査実施日及び調査対象人数

- | | |
|------------|--|
| (1) 調査実施日 | 令和元年11月12日（火） |
| (2) 調査対象人数 | 学校第1学年 9,974 人
学校第2学年 9,573 人
学校第3学年 9,765 人 |

5. 調査の方法

○国語・社会・数学・理科・英語

各教科の問題は、知識・技能に関する問題と思考・判断・表現に関する問題について出題し、それぞれについて分析を行った。

解答用紙

令和元年度 川崎市立中学校学習診断テスト 社会 2年 解答用紙

※右下の欄に「マスターシール」をはることを。

問1

ア	イ	ウ	エ

問2

ア	イ	ウ	エ	オ

問3

ア	イ	ウ	エ	オ	カ

問4

ア	イ	ウ	エ

問5

ア	イ	ウ	エ

問6

ア	イ	ウ	エ	オ	カ

問7

ア	イ	ウ	エ	オ

問8

ア	イ	ウ	エ	オ

問9

ア	イ	ウ	エ	オ

問	知	技	思	判	表
1	/4				
2	/3				/2
3	/4				/2
4	/4				/3
8	/3				/4
9	/2				/3
正答数	/31				/18

網掛けは、思考・判断・表現に関する問題

問4(オ) A B C

問8(オ) A B C

正答数の合計

正答基準の解答類型により○を付ける

A：すべての条件が満たされている

B：指定の語句をすべて使用しているが、内容が不十分である

C：内容が正しくない、語句をすべて使用していない、無答

<注意> 右のマークは、ぬりつぶしたり、傷をつけたりはいけません。

川崎市立 中学校 組 番

2019176400000

マスターシール

ここにマスターシールをはってください。

◎ 調査結果の概要

○定着していると考えられる内容 ●課題があると考えられる内容

知識・技能に関する問題

国 語

○既習の漢字を読むこと ●言葉の単位や熟語の意味等、言葉に関して理解すること

社 会

○基本的な資料を読み取ること ●近代の日本と世界に関わる歴史的事象について理解すること

数 学

○連立二元一次方程式を解くこと

●平行線や多角形の角に関する性質を用いて、角の大きさを求めること。

理 科

○二酸化炭素の性質を理解すること ●密度や質量%濃度を求める式を立式すること

英 語

○短い会話文を聞き、その内容を把握すること ●正しい綴りで書くこと

思考・判断・表現に関する問題

国 語

○韻文の内容の理解と鑑賞をすること ●文章の内容や展開をとらえ、文のつながりを理解すること

社 会

●同時期の世界と日本の歴史的事象について考察することや、事象を関連付けて考察すること

数 学

○具体的な事象を読み取り、問題を解決すること

●数量の関係から具体的な事象を捉え表現すること

理 科

○リード文や選択肢などにより定められた視点で、比較し考察すること

●複数のグラフや資料等のデータ、探究の過程における結果と方法等を関連付けて考察すること

英 語

●場面や状況を理解し、それに適した文章を正しく書くこと

平均正答率

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
知識・技能	64.9%	61.4%	56.0%	55.8%	48.9%
思考・判断・表現	69.4%	53.5%	51.5%	54.4%	38.0%
全設問	68.2%	58.5%	53.7%	55.2%	43.9%

◎ 思考・判断・表現に関する問題

1. 国語

文章の内容や展開をとらえ、文のつながりを理解する問題

○出題の趣旨

説明的な文章の内容や展開をとらえ、抜き出した一文を適切な部分に入れる。

問五
この文章には、次の一文が抜けています。文章中の【a】～【d】のどの部分に入りますか。最もよいものを選び、【a】～【d】の記号で書きなさい。

「食べられることを利用する」とは、いったいどういうことなのだろう。

植物は昆虫や動物に食べられないように、さまざまな防御手段をとっている。葉を変形させて刺にしたり、さまざまな毒成分をたくわえて被害を受けないようにしている。

【I】 それだけではない。植物はむしろ、「食べられること」を利用してしている。そして、食べられることで成功を遂げているのである。これぞまさに「強い者」を利用して究極の奥義と言えらるだろう。

【a】

植物は受粉をするために、花粉を作る。古くは、植物はすべて花粉を風に乘せて運ぶ風媒花であった。しかし、気まぐれな風で花粉を運ぶ方法は、いかにも【B】である。どこに花粉が運ばれるかわからない風まかせな方法では、他の花に花粉がたどりつく可能性は極めて低いからだ。そのため、風媒花は花粉を大量に作ってばらまかなければならない。

【b】

その花粉をエサにするために、昆虫が花にやってきた。花粉は食べられるばかりである。昆虫は花から花へと、花粉を食べあさる。そのうち、昆虫の体に付いた花粉が、他の花に運ばれて受粉されるようになった。

【c】

そして、植物は昆虫に花粉を運ばせることを思いついた。花から花へと移動する昆虫に花粉を運ばせる方法は、風に乘せて花粉を運ぶ方法に比べれば、ずっと確実に効果的である。そのため、むやみやたらに花粉を作る必要はなく、生産する花粉の量をずっと少なくすることができるようになった。つまり低コスト化に成功したのである。【II】 浮いた分のコストで、昆虫を呼び寄せるために花を花びらで彩り、昆虫のために蜜を用意したのである。こうして、植物は巧みに昆虫を利用してしているのである。

【d】

植物は昆虫のために蜜を用意し、昆虫は植物のために花粉を運ぶ。この植物と昆虫との関係はWIBU・WIBUの共生関係にあると言われている。しかし、もともとは植物にとって昆虫は花粉を食べる天敵であった。その天敵を利用したのである。

(稲垣栄洋「弱者の戦略」より)

主な課題
段落ごとの内容や文章の展開をとらえながら読み、文のつながりを理解すること

正答 … a
正答率 60%

誤答選択率
b 13%
c 6%
d 18%

参考(同形式の出題)
平成31年度(令和元年度)市小学校学習状況調査
問五(3) 正答率 49.5%

○授業改善に向けて

文章の構造と内容の把握に関し、今年度、本市の小学校学習状況調査においても同じ形式の出題をしている。各段落の内容や接続詞等のはたらき、段落相互の関係を理解するとともに、その一文の文章中での役割を理解することも必要となり、この問題では、問題を提起している文とそれに対する説明という役割の把握が求められる。

授業改善の手立てとしては、言葉の意味やはたらき等に注意し、特に、指示する語句や接続する語句に着目して読むことや、各段落の関係、文章の展開をとらえることができるような指導の工夫が必要である。どのような内容が書かれているかということだけでなく、どのように書かれているかという視点で読む学習を適切に設定し、言葉そのものに立ち止まり、言葉に関する知識を活用しながら文章を読む活動を積み重ねていくことが大切である。

2. 社会

世界の諸地域の特色について、事象を関連付けて考え判断することに関する問題

○出題の趣旨

オセアニア州の気候について、資料を読み取り、正しく判断しているかを問う。

問 6 「南アメリカ州とオセアニア州」について、こうすけさんとさとこさんの会話文をみて、つぎの(ア)の問いに答えなさい。

会話文

こうすけさん：今年の夏休みの課題で、南アメリカ州とオセアニア州を調べることになりました。

さとこさん：南アメリカ州といえば、以前、インカ帝国の空中都市といわれているマチュピチュ遺跡に行ったことがありますよ。標高の高い **A** 山脈のところだったので、行くのにとっても苦労しました。

こうすけさん：ほかに行ったところはありますか。

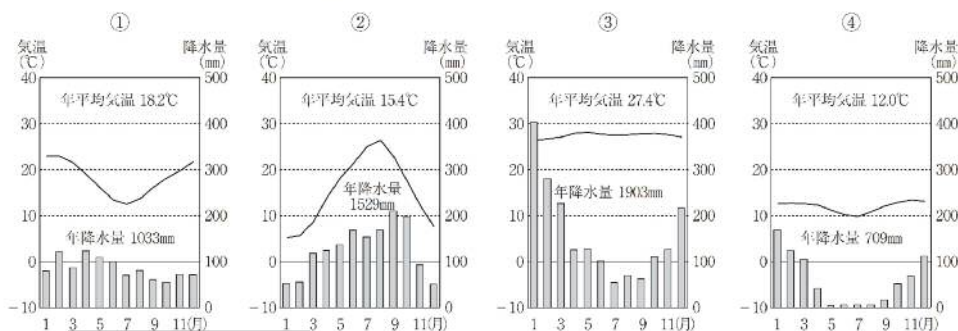
さとこさん：**①** ブラジルにも行ったことがあります。ブラジルの **②** リオデジャネイロではカーニバルを見てきました。

こうすけさん：オセアニア州には行ったことがありますか。

さとこさん：**③** オーストラリアの **④** シドニーに行ったことがあります。シドニーはオセアニア州最大の都市で、日本と同じような気候で過ごしやすかったです。そういえば、2つの州とも **⑤** 鉱産資源が豊富であるという特徴があります。

こうすけさん：ありがとうございます。がんばってレポートをまとめてみようと思います。

(ア) 下線④について、シドニーの雨温図を、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。



正答：① **正答率：31%** 誤答選択率：② 43% ③ 16% ④ 10%

主な課題 各州の地域的特色等について、既習の知識や各種資料等を関連付けて考えること

○授業改善に向けて

世界の諸地域の学習では、各州の自然や産業、歴史的背景等の「地域的特色」を概観し、そこで理解したことを活用して、各州に見られる環境問題や多文化社会といった「地球的課題」等を考える学習が求められる。本問では、会話文にある「シドニー」の雨温図として適切なものを選択する際に、北半球と南半球の季節が反対になるという既習の知識と、雨温図から読み取った情報を関連付けて考えることを出題の趣旨とした。

授業改善の手立てとしては、普段から既習の知識の活用を意識し、各州の地域的特色については、地形や気候、暮らしの様子等特色等と、グラフや統計、雨温図等の各種資料を関連付けて考える活動が求められる。また、地球的課題を学習する際には、地域的特色の学習で身に付けた知識等を活用し、各州に見られる地球的課題を表す各種資料等を関連付けて考える活動が挙げられる。

3. 数学

数量関係から具体的な事象をとらえ、表現することに関する問題

○出題の趣旨

数量の関係から具体的な事象を捉え、数学的に表現することができる。

問5

バスケットボールの試合は、2点シュートと3点シュートがあり、まさやさんのチームは26点取りました。まさやさんのチームが2点シュートを x 本、3点シュートを y 本入れたとすると、次の問いに答えなさい。

(ア) 下の表は、 x 、 y の値の組を求めたものです。(i)、(ii)に入る数を求めなさい。

x	1	4	7	(ii)	13	←(ア)参考
y	8	(i)	4	2	0	

(イ) この問題について、ようこさんとけんたさんと先生は、次のような会話をしています。□にあてはまる条件を言葉で答えなさい。

ようこさん：「まさやさんのチームが26点取ったことから $2x + 3y = 26$ という式が立てられ、5通りの得点の入れ方が考えられるね。実際に2点シュートと3点シュートを何本ずつ入れたのかな。」

けんたさん：「この条件だけでは、実際に何本ずつ入れたかわからないよ。他に条件はないのかな。」

先生：「けんたさんの言う通り、この条件だけでは得点の入れ方が1通りに決まりませんね。では、□という条件を加えて、考えてみましょう。」

ようこさん：「新たに加わった条件を式にすると $x + y = 11$ になるね。」

けんたさん：「連立方程式 $2x + 3y = 26$ 、 $x + y = 11$ を解くと $x = 7$ 、 $y = 4$ になったよ。」

ようこさん：「実際に2点シュートは7本、3点シュートは4本の1通りに決まったね。」

正答例：

2点シュートと3点シュートを合わせて11本入れたとする

正答率：27%

無答率 44%

誤答例と選択率：

- ・ゴールを入れた回数を11回とする(12%)
- ・決めたシュートの本数(5%)
- ・何回シュートしたか(3%)

主な課題

問題の中の数量関係を整理し、その中から数量の関係を見出し、捉えた具体的な事象を数学的に表現すること

○ 授業改善に向けて

昨年度の全国学力・学習状況調査では、「連立方程式を作って問題を解決するために、着目する必要がある数量を見出し、その数量に着目し立式すること」に課題があった。そこで、本問では、「 $2x + 3y = 26$ の式や $x + y = 11$ の式がそれぞれどのようなことを表現しているのか」を考え、それを理解し言葉で表現するという問題を出題した。記述に対する苦手意識からの無答率の高さに加えて、「合わせて」などという言葉がなく表現が不十分なものによる誤答など、立てられた式を数学的に言葉で表現することに課題がある。

数式の意味を言葉で表現することは、連立方程式とその解の意味について理解する重要な素地となる。授業改善の手立てとして、問題に対して数量の関係をとらえ、数学的な表現(言葉、図や式、グラフ、数直線、場面絵など)を用いて具体的な事象を表現する活動を多く取り入れるなど、丁寧に扱うことが必要である。

4. 理科

実験の結果から実験の操作方法を振り返り、修正点を見いだす問題

○出題の趣旨

発生したはずの二酸化炭素を集めることができなかったという実験結果から、収集の方法を振り返り、失敗の原因を指摘できる。

問 2 川崎さんは、小学生の妹の自由研究のお手伝いをしています。以下は、そのときの【会話】のようすです。次の各問いに答えなさい。

【会話】

妹 さん：お兄ちゃん、空気には色々な気体がふくまれていると小学校の授業で習って、夏休みの自由研究で、気体について色々調べたいんだけど、お風呂で発泡入浴剤を入れたときにブクブク出るので何の気体なの。

川崎さん：それは、二酸化炭素だよ。中1のときに習ったな。1年前に授業でやったから、ちょっと自信ないけどね。実際にやってみようか。

妹 さん：ありがとう。

川崎さん：お湯を入れたビニール袋に発泡入浴剤を入れて、ストローを差して密封させれば、気体を取り出せるよ。そして、この方法で気体を集めよう。ただし、最初に出る気体は、ビニール袋の空気が入っているから集めないでね。
(気体を集める操作を行う)

妹 さん：この気体が二酸化炭素かどうか調べるにはどうしたらいいの。

川崎さん：イ方法があるよ。
(二酸化炭素だと確かめる方法を行う)

川崎さん：あれ。何の反応もないぞ。

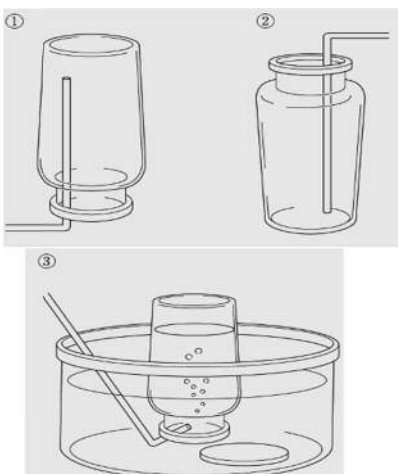
妹 さん：お兄ちゃん、本当に二酸化炭素が発生してるの。


川崎さん：おかしいな。二酸化炭素が発生してるはずなんだけどな。
理科のノートを見返してみよう。
ごめんね。気体を集める方法が間違っていたみたい。


妹 さん：ちょっと、しっかりしてよ。

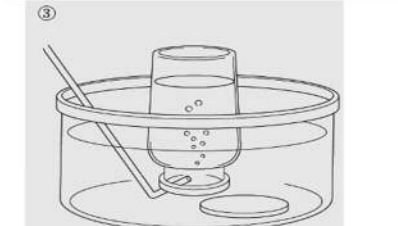
川崎さん：お願い、もう一度実験させて。

a 下線部(ア)で、気体を集めた方法はどれですか。次の①～③から1つ選び、その番号を答えなさい。



① 

② 

③ 

正答：① **正答率：20%** 誤答選択率：③62% ②17%

主な課題
探究の過程を把握するとともに、その過程で起きた失敗の文脈を理解して原因を追究すること

○ 授業改善に向けて

新学習指導要領では資質・能力を育むために探究の過程が重視されている。一般的な流れとしては、自然事象に対する気づきから課題を設定し、仮説の設定、検証計画の立案、観察・実験へと進む。そして、結果の処理、考察・推論をしていくことになるが、そこでは、今行っている活動が探究の過程のどこに位置づくかを理解し、見通した結果が得られなければ振り返って原因を突き止め、改善して探究を続ける必要がある。

授業改善の手立てとしては、実験が失敗した原因を探究したり、生徒が立てた複数の仮説に沿った実験を行い、それぞれの実験結果を関連させて考察したりするなどの探究活動を充実させる必要がある。そうすることにより、条件や探究の方法によって結果が変わることを理解し、探究の過程全体をとらえて考察する力が育まれると考える。

5. 英語

会話の場面や状況を理解し、適した英文を書く問題

○出題の趣旨

与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。

問8 a

ベンの家でパーティー(party)が終わりました。ベンが片づけをしています。あなたならベンに何といますか。()に入るふさわしい表現を3語以上の英文で書き、英文を完成させなさい。



主な課題

会話の場面や状況を理解し、それに適した英文を正しく書くこと

正答例

Shall I wash

正答率 45%

無答率 24%

誤答例 : Shall I help / Could you clean

○ 授業改善に向けて

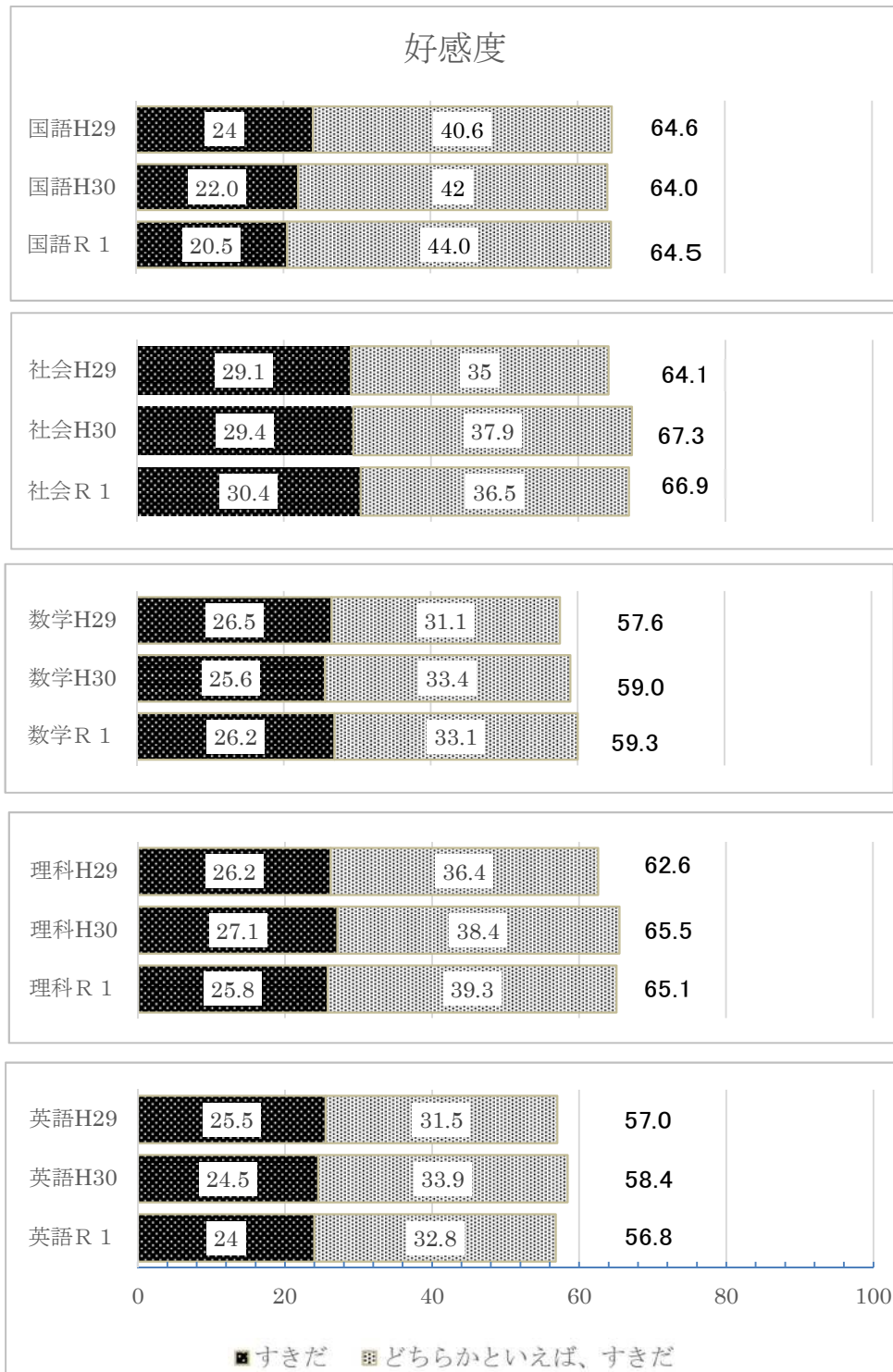
正答率は45%、無答率は24%となっている。外国語を適切に使用するためには、コミュニケーションを行うことによって達成しようとする目的、コミュニケーションが行われる場面や状況が不可欠であり、この目的や場面、状況に応じたコミュニケーションを実際に繰り返すことで、思考力・判断力・表現力等が育成される。

授業改善の手立てとしては、特定の文法や表現のみを用いて、その定着のみを目的として文を書かせるのではなく、目的や場面、状況が設定された言語活動において、既に学習した様々な文法や表現を活用させて文を書くことを授業の中に位置付けることが必要である。また、確実な定着を図るために、ある程度の分量を「書く」ための時間を確保するとともに、書く中で正確な語彙の使い方や文法などを継続的に指導していくことも重要である。

◎ 生活や学習についてのアンケートについて

1. 授業に対する好感度、理解度、有用感等について

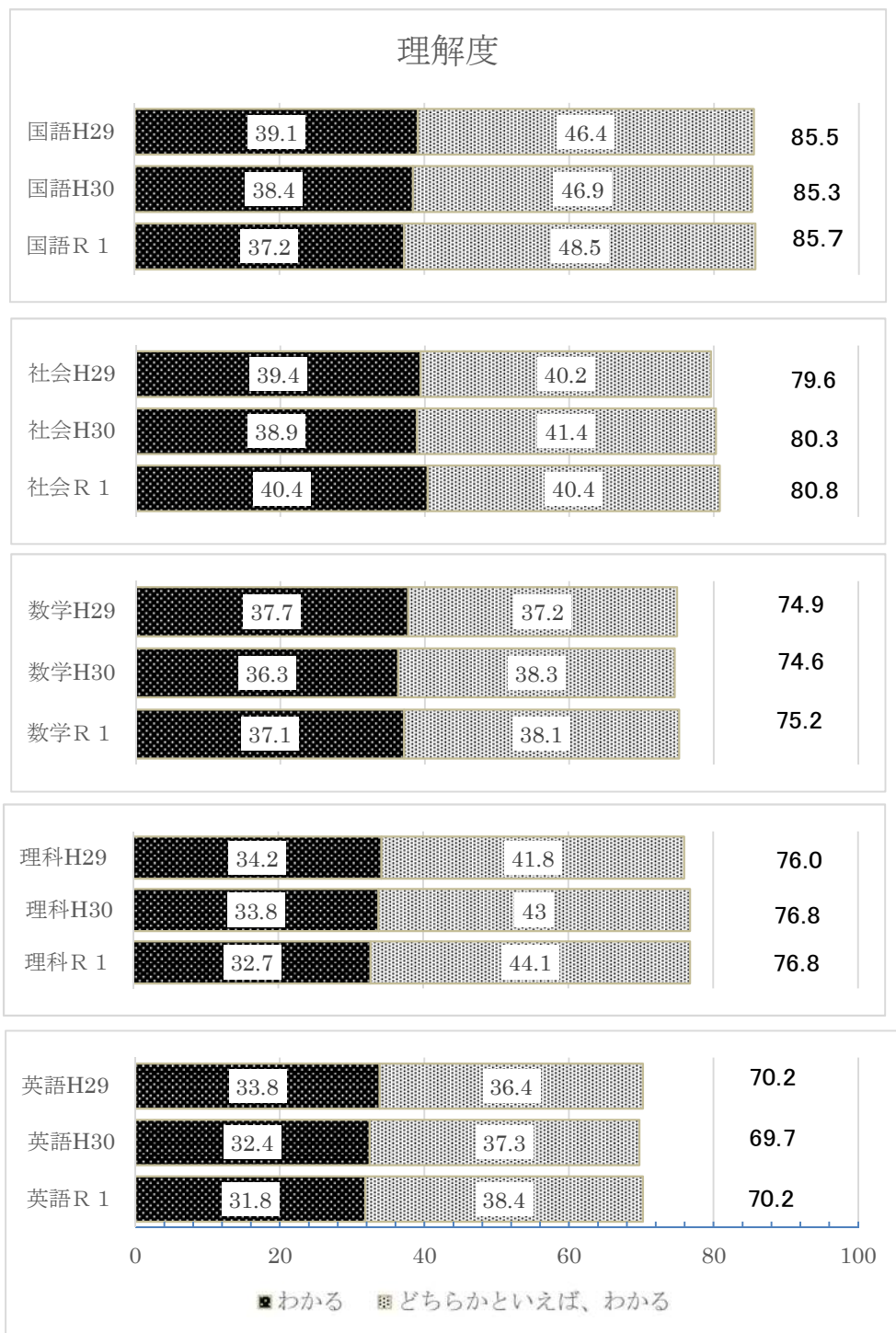
(1) 好感度 「すきだ」「どちらかといえば、すきだ」



○授業の好感度（「すきだ」「どちらかといえば、すきだ」を合わせた割合）は高い順に「社会」「理科」「国語」「数学」「英語」となっている。母集団の変化はあるが、この生徒たちが小学5年生の時の調査(平成28年度)では「理科」(86.6%)「算数」(72.6%)「国語」(69.1%)「社会」(65.0%)の順であった。

○過去3年間の各教科の好感度の推移に大きな変化は見られない。

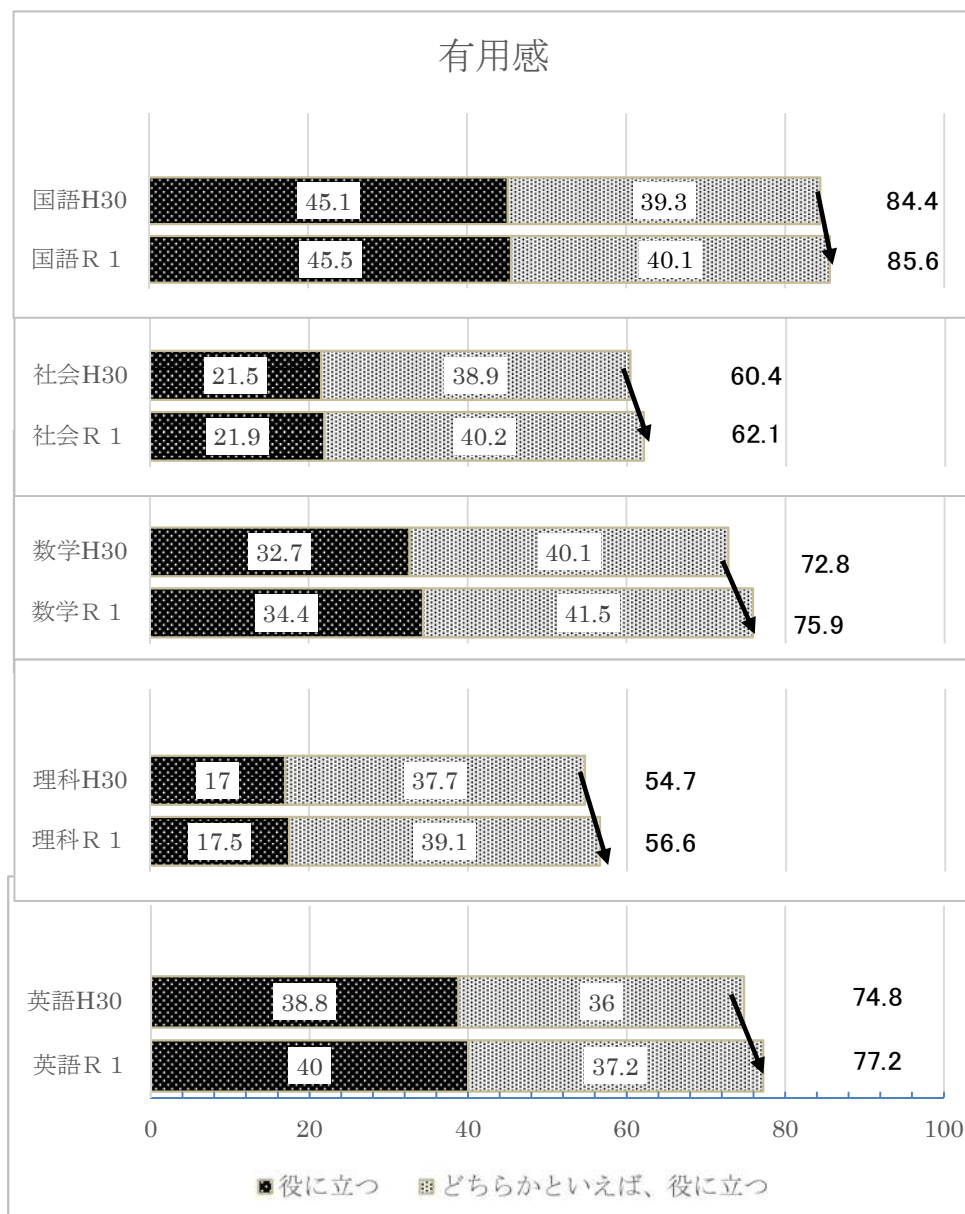
(2) 理解度 「わかる」「どちらかといえば、わかる」



○授業の理解度（「わかる」と「どちらかといえば、わかる」を合わせた割合）は高い順に「国語」「社会」「理科」「数学」「英語」となっている。母集団の変化はあるが、この生徒たちが小学5年生の時の調査(平成28年度)では「理科」(93.7%)「国語」(92.4%)「算数」(86.7%)「社会」(85.1%)の順であった。

○過去3年間の各教科の理解度の推移に大きな変化は見られない。

(3) 有用感（生活） 「役に立つ」「どちらかといえば、役に立つ」

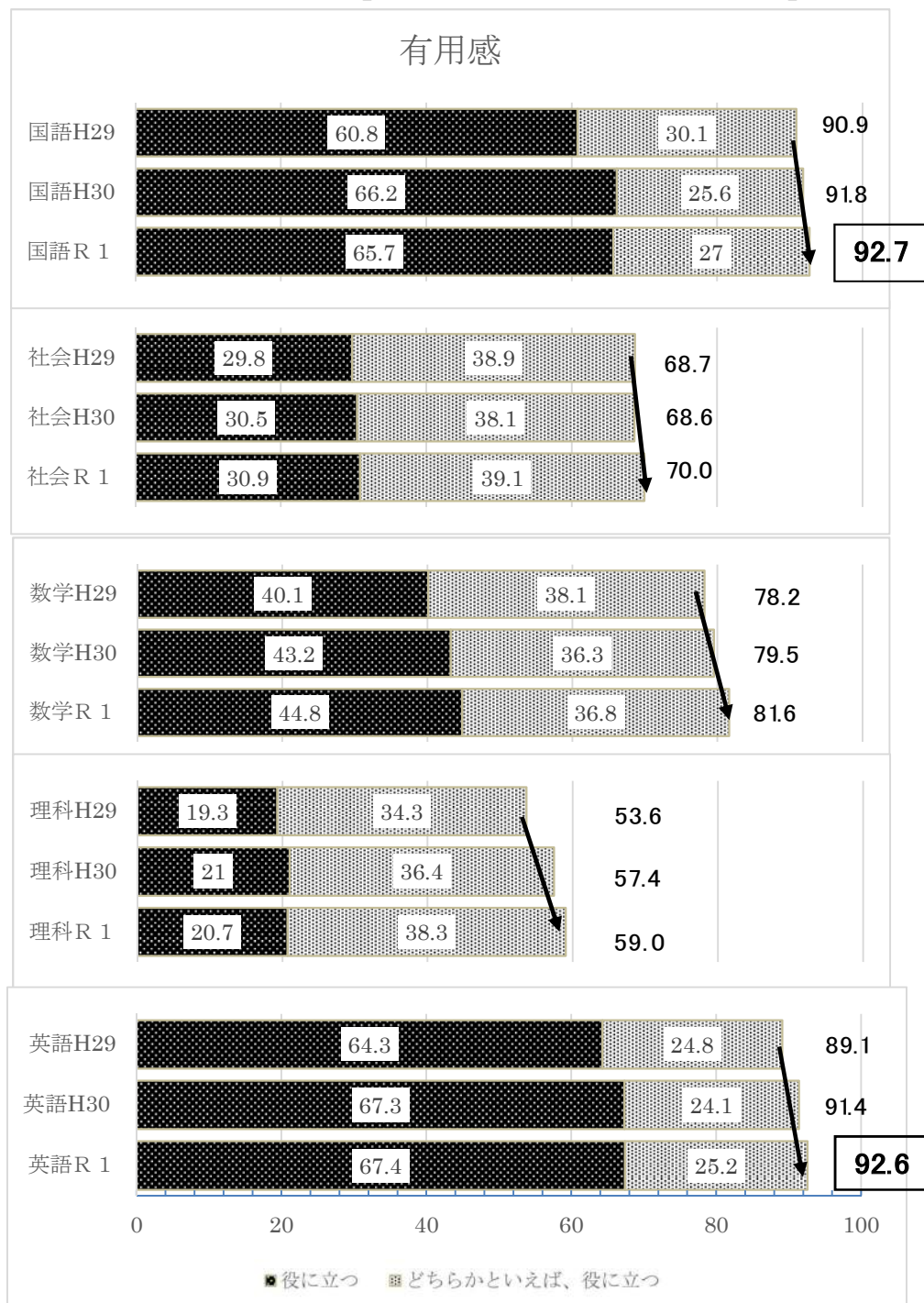


○平成 29 年度は有用感については「生活の中で役に立っているか」を質問している。

○学習に対する生活への有用感（「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」を合わせた割合）は高い順に「国語」「英語」「数学」「社会」「理科」となっている。母集団の変化はあるが、この生徒たちが小学 5 年生の時の調査（平成 28 年度）では高い順に「算数」（95.0%）「国語」（90.3%）「社会」（88.9%）「理科」（86.8%）となっている。

○各教科の生活への有用感は今年度で増加している。

(4) 有用感 (将来) 「役に立つ」「どちらかといえば、役に立つ」

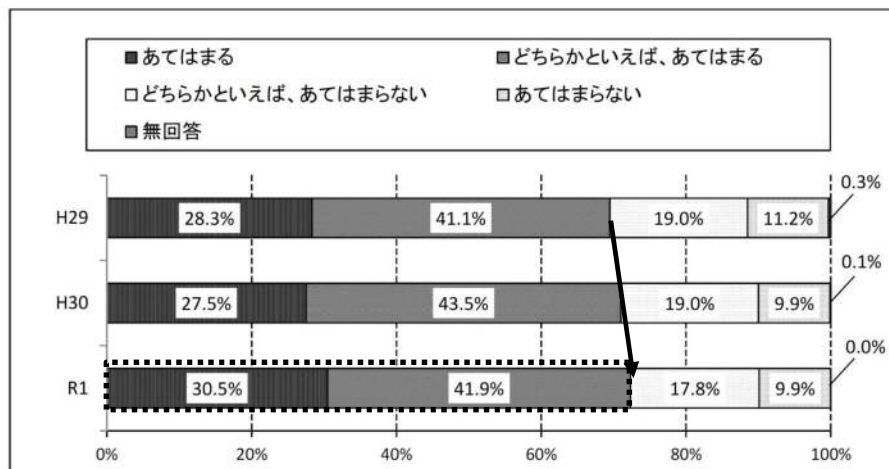


○学習に対する将来への有用感（「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」を合わせた割合）は高い順に「国語」「英語」「数学」「社会」「理科」となっている。

○過去3年間の各教科の将来への有用感の推移は全ての教科で増加しているが、国語と英語については90%を超えて、なお増加を続けている。また、「理科」と「数学」はその増加の幅が大きい。

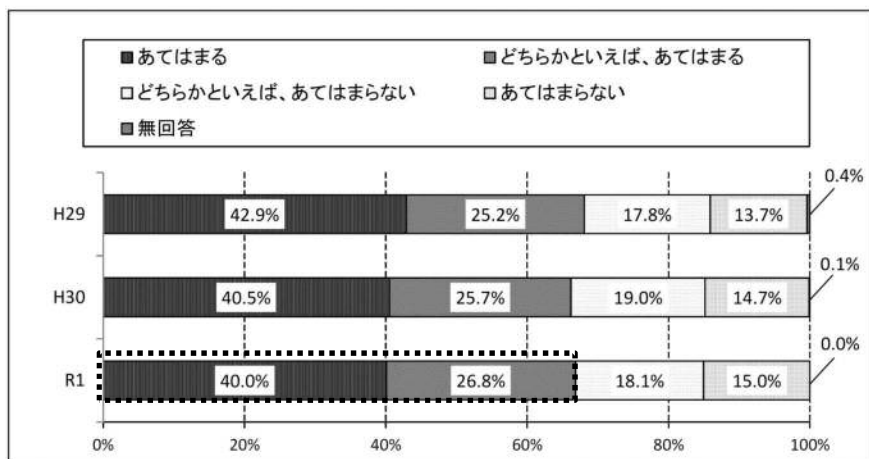
2. 自尊意識・将来に関する意識などについて

(1) 自分にはよいところがあると思う【問 45】



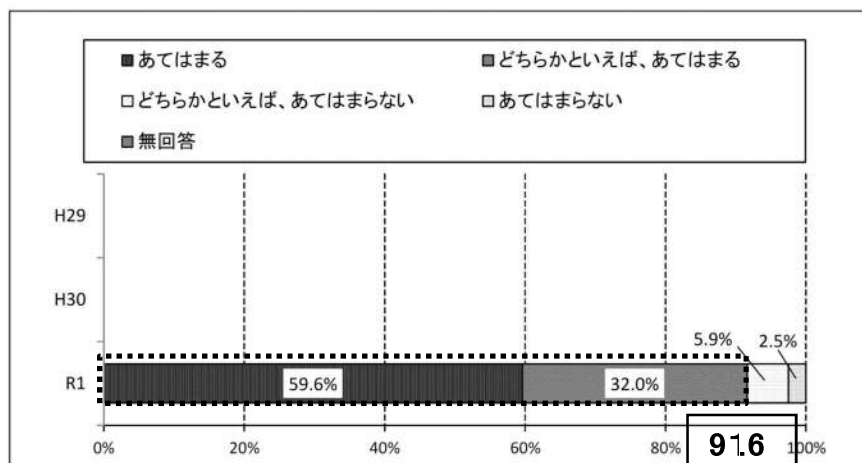
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒の割合は72.4%であり、増加を続けている。

(2) 将来の夢や目標を持っている【問 46】



○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒の割合は66.8%であり、65~70%で推移している。

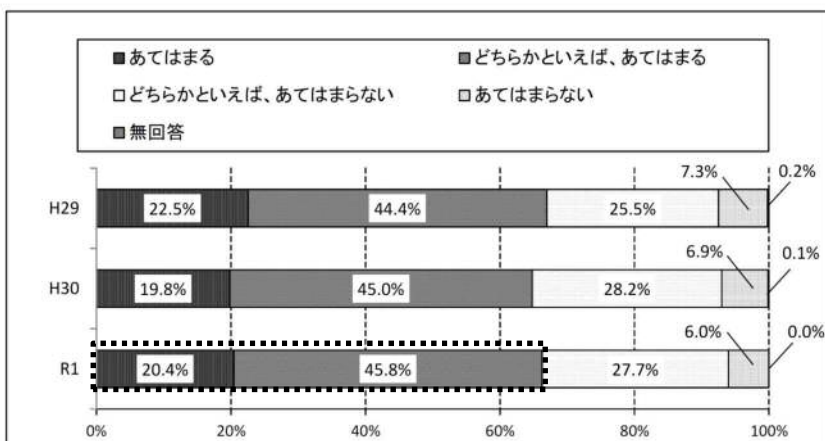
(3) 人の役に立つ人間になりたい【問 47】



○今年度より新たに加えた質問である。

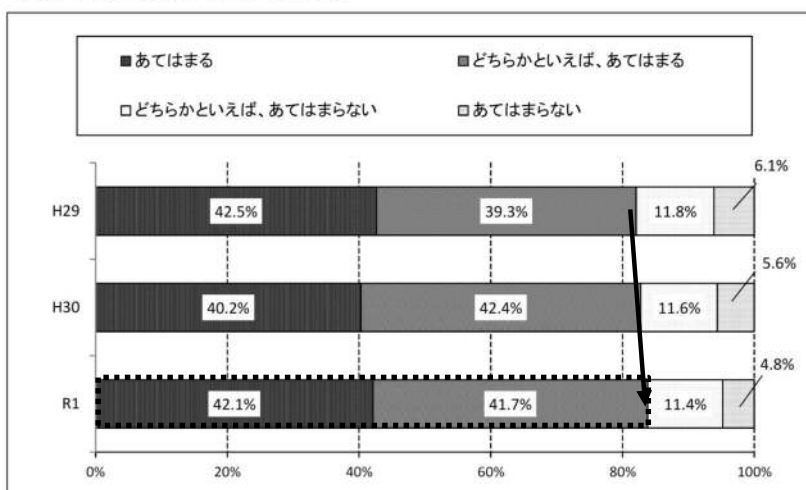
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒の割合は91.6%である。

(4) 失敗を恐れなくて挑戦している【問 48】



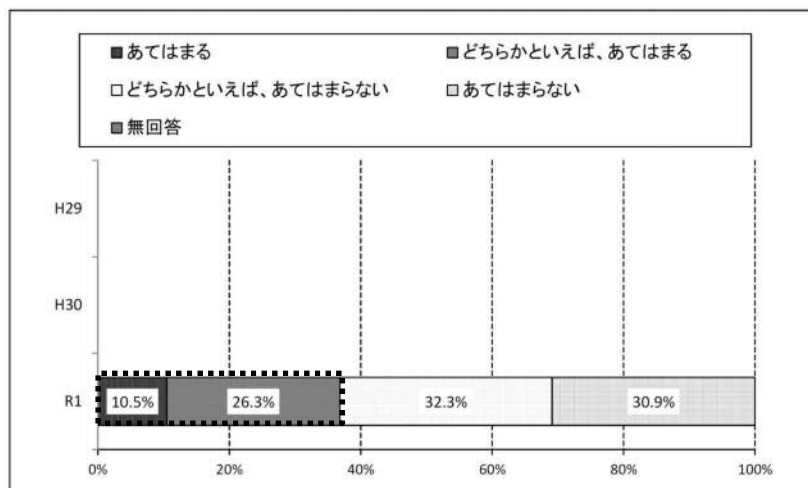
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒の割合は66.2%であり、65～70%で推移している。

(6) 自分の町が好き【問 50】



○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒の割合は83.8%であり、わずかだが増加を続けている。

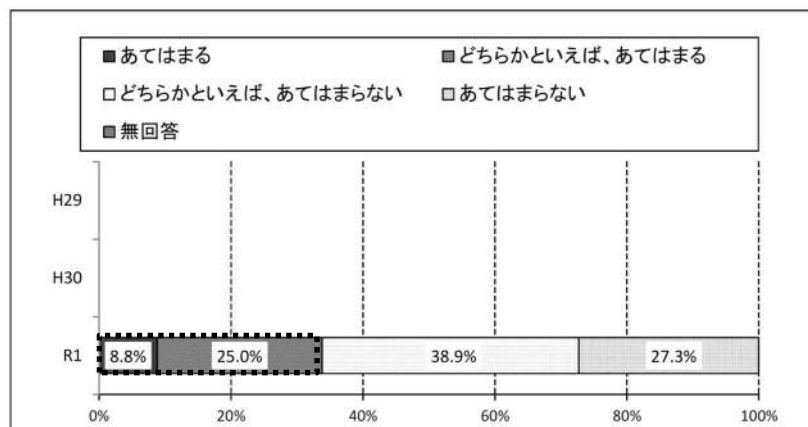
(7) 今、住んでいる地域の行事に参加している【問 51】



○今年度より新たに加えた質問である。

○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒の割合は36.8%である。

(8) 地域や社会のために、何をすべきか考えることがある【問 52】



○今年度より新たに加えた質問である。

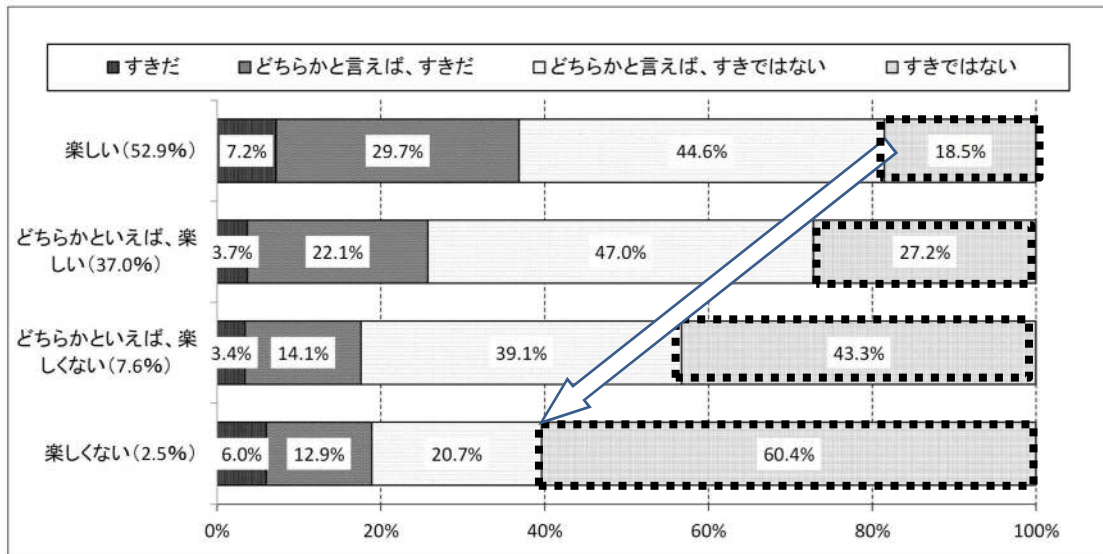
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒の割合は33.8%である。

自尊意識については、年々高まる傾向が見られる。学校生活や家庭生活の中で自分自身のよさを感じることができる機会が増えていると考えられる。今後も将来の夢を持つことや様々な体験に前向きに取り組むことにつながる、自尊意識を高める教育活動を進めていくことが大切である。

自分の町が好きであると肯定的に回答している生徒は8割を超えている。しかし、地域の行事への参加や地域への貢献について考えることに関しては3割程度の回答にとどまっている。既に各学校で行われている「地域と連携した活動」や、地域・社会について考える授業等に、生徒たちが意識的に取り組めるようにしていく指導や活動の工夫が必要である。

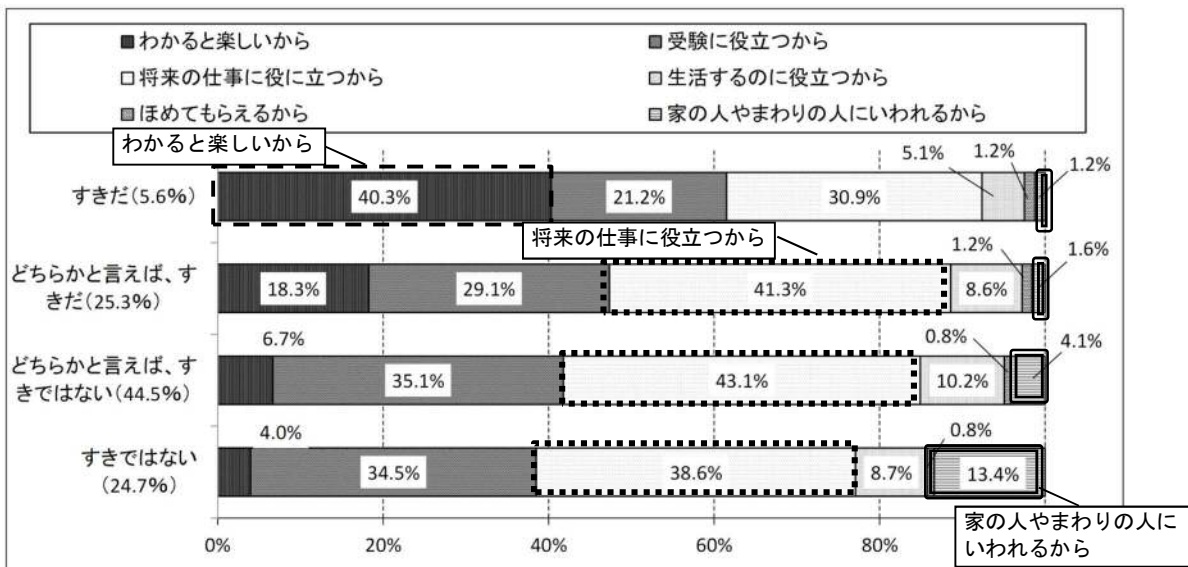
3. クロス集計

■ 「学校生活の楽しさ」〔問1〕 × 「学習に対する好感度」〔問2〕 クロス集計



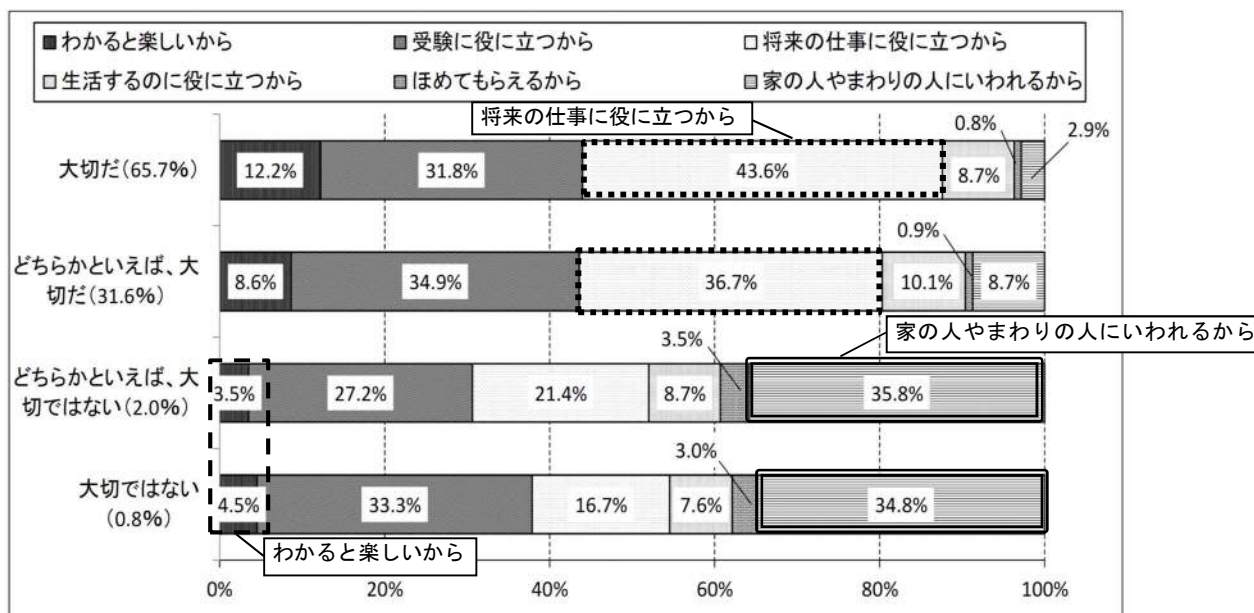
○ 「学校生活は楽しいですか」への回答が否定的になるほど、学習に対して否定的な回答をする割合が高くなる。生徒が感じる「学校生活における授業への意識」の重要性を改めて確認することができる。

■ 「学習に対する好感度」〔問2〕 × 「勉強する理由」〔問4〕 クロス集計



- 勉強が「すきだ」と回答した生徒の中では「わかると楽しいから」を勉強する理由に挙げている割合が最も高い。
- 勉強を「すきだ」と回答した生徒以外は、「将来の仕事に役に立つから」を勉強する理由に挙げている割合が最も高い。
- 学習に対する好感度が低くなるほど「家の人やまわりの人にいわれるから」を勉強する理由に挙げる割合が高くなっている。

■ 「学習の必要性」〔問3〕 × 「勉強をする理由」〔問4〕 クロス集計



- 「勉強することは、大切なことだと思いますか」への回答が肯定的な生徒ほど、「将来の仕事に役に立つから」を勉強する一番の理由に挙げている割合が高い。
- 「勉強することは、大切なことだと思いますか」への回答が否定的な生徒ほど、「家の人やまわりの人にいわれるから」を勉強する一番の理由に挙げる割合が高い。また、「わかると楽しいから」を勉強する一番の理由に挙げる割合は、5%未満と少ない。

新学習指導要領では育成を目指す資質・能力を明確にし、教科等の「学ぶ意義」を大切にしながら、教科等間のつながりを踏まえた教育課程の編成を通して、全体として教育効果を高めていくことが求められている。今後とも、すべての生徒が「わかる」ことを目指しながら、その内容を学ぶことによって「何ができるようになるか」という、育成を目指す資質・能力を指導のねらいとして明確に設定するとともに、生徒たちの学習に対する興味・関心を高めたり、見通しをもたせたりして、主体的に学習に向かわせる指導の工夫が必要である。

◎ 調査結果の活用

経年観察およびその考察

国語の例

学年	経年変化の視点	趣旨	実施年度			考察
			H29	H30	R1	
第2学年	文章を的確に読み取り条件を満たして記述する (文学的な文章)	思・判・表	H29 問4(カ)	H30 問4(工)	R1 問4(カ)	物語の内容を捉え、条件に即して記述する設問である。今年度の正答率は過去5年間で最も高かった。H29、H30はある言葉が物語中で意味することを説明する内容だったのに対し、R1は主人公の様子の理由を捉えて書く内容だったことが正答率が高かった要因の一つと考えられる。また、該当場面の登場人物が二人と少なく、立場が明確であったことや、会話から状況や心情を捉えやすかったことも考えられる。今後も、複数の叙述を関連させて内容理解をするような課題設定、読み取った内容や自分の考えを目的に応じ、適切にまとめて書くことができるような指導の工夫が引き続き求められる。
			37%	45%	81%	
			H28 問5(ア)	H30 問5(ア)	R1 問5(ア)	
	文のつながりの理解 (説明的な文章)	思・判・表	52%	60%	60%	
			H29 問6(イ)	H30 問6(ア)	R1 問6(イ)	
			59%	75%	62%	
歴史的仮名遣いの理解	知・技	H29 問6(イ)	H30 問6(ア)	R1 問6(イ)	H29は「たがはず」H30は「ちひさき」R1は「あひぬ」という歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問である。誤答としては、仮名遣いを直すのではなく、現代語としての意味を答えているものがあった。問題の意図を理解することや、現代仮名遣いと歴史的仮名遣いの違いの理解に課題があると考えられる。	
		59%	75%	62%		
		59%	75%	62%		



理科の例

第2学年	公式に基づいた立式	知・技	H29 問1b/問3a	H30 問1a/問3a	R1 問1a/問3b	問1は密度、問3は質量パーセント濃度を求める正しい式を選択する問題である。割り算を伴う計算に課題があり、立式と計算のどちらが課題かを明らかにするために難易度を変えずに継続して出題している。質量パーセント濃度は、昨年度よりも15%低くなった。分子、分母の値と割ることの意味を考えさせながら立式させるなど丁寧な指導が必要である。
			38%/54%	47%/58%	48%/43%	
			H29 問5b	H30 問5c	R1 問6c	
	グラフの作成	知・技	64%	41%	53%	
			H29 問16a/b	H30 問16a/b	R1 問16a/b	
			55%/88%	73%/62%	73%/57%	
共通点や相違点を見いだして分類する	思・判・表	H29 問16a/b	H30 問16a/b	R1 問16a/b	どの年度も、分類名と分類の観点や基準を問う出題である。いろいろな生物を比較して共通点や相違点を見出し、分類する活動を通して、生物の分類の仕方に関する基礎的な技能を身に付けさせたい。概ね理解しているが、生徒が見いだした共通点や相違点に基づき分類、整理する主体的な活動を通して思考力・判断力・表現力を育みたい。	
		55%/88%	73%/62%	73%/57%		
		55%/88%	73%/62%	73%/57%		

英語の例

2学年	メールの内容理解	知・技	H29 問6c	H30 問6b	R1 問6c	年々正答率が低下し、6割以上の生徒が誤答となっており、メールの形式の英文の内容理解には課題がある。日頃よりさまざまなタイプの英語に触れる必要がある。言語活動の中で、読む目的を明確にしながらかつさまざまな英文に触れさせたい。
			47%	41%	34%	
			H29 問8a,b	H30 問8a,b	R1 問8a,b	
	会話の流れに合った英文を書く	思・判・表	19%,16%	8%,38%	45%,10%	
			H29 問8a,b	H30 問8a,b	R1 問8a,b	
			19%,16%	8%,38%	45%,10%	
会話の流れに合った英文を書く	思・判・表	H29 問8a,b	H30 問8a,b	R1 問8a,b	昨年同様に1問は正答率が1割程度となっており、英文を書くことに課題が見られる。日本語を英語にするだけでなく、その英文がどのような場面で使用されるのかを考える、場面と結び付けた指導が必要である。また、例年同様に綴り等の間違いも見られることから、継続的に書く活動を取り入れる必要がある。	
		19%,16%	8%,38%	45%,10%		
		19%,16%	8%,38%	45%,10%		

今年度は、各教科ともに経年観察で分析した問題とその考察をまとめたページを設けた。

各教科では、主任会や教科総会において、調査結果から明らかになった課題や授業改善への手立てを周知するとともに、学習指導要領実践事例集などで具体的な実践例を示している。

各学校では、設問ごとの授業改善への手立てをもとに、子どもたちが「わかる」を実感できる授業づくりに活用している。

2. 個人票

川崎市立中学校 学習状況調査 個人成績表

176番 川崎市立中学校様
中学2年 2020年 2月17日発表
1470001
川崎市立大師中学校
2年 A組 1番

■成績表の見方

この学習調査は、今年よりより学習のために、個人の学習状況と能力の成長を調査するものです。
 ・今年度の成績は、「正答率グラフ」は棒グラフであなたの正答率を表現し、平均での学習状況を表現しています。
 ・「教科別正答率グラフ」は、それぞれの教科に該当する問題について、あなたの正答率を表現しています。
 ・「問題別正答率グラフ」は、それぞれの問題に該当する問題について、あなたの正答率を表現しています。
 ・「問題別正答率」は、教科全体についての学習状況をマクロ的に、あなたの成績と見比べる正答率であったり内容と見比べ、その中の学習状況をマクロ的に表現しています。
 ・教科別正答率・問題別正答率・問題別正答率グラフは、あなたの成績と見比べてみることで、

■留意調査

国語

よく思う	18.0	悪く思うことはない	33.0	どちらかという	7.5
どちらかという	28.2	どちらかという	44.0	どちらかという	12.0
どちらかという	29.8	どちらかという	17.1	どちらかという	23.4
どちらかという	24.7	悪く思うことはない	5.7	どちらかという	0.0
科目名	0.3	科目名	0.2	科目名	0.5

社会

よく思う	12.8	悪く思うことはない	25.7	どちらかという	29.1
どちらかという	24.4	どちらかという	29.3	どちらかという	40.7
どちらかという	25.4	どちらかという	25.7	どちらかという	20.5
どちらかという	25.9	悪く思うことはない	19.0	科目名	8.2
科目名	0.4	科目名	0.3	科目名	0.5

数学

よく思う	32.1	悪く思うことはない	32.7	科目名	30.0
------	------	-----------	------	-----	------

■教科別分析

理科

観点別到達度チャート

学習アドバイス

「自然現象についての知識・理解」をさらに伸ばすために、理科の現象や実験の様子を通して、よく観察する習慣を身につけてください。

「観察・実験の技能」をさらに伸ばすために、実験した観察や実験結果だけでなく、自分で新しくテーマを決めて観察や実験の方法を考えていくようにしましょう。

問題別正答率

観点名	正答率	正答率	正答率グラフ(平均)	平均	正答率
1 科学的な現象・事象	16/17	94	▼	94	94
2 観察・実験の技能	8/7	86	▼	86	86
3 観察・実験についての知識・理解	17/18	94	▼	94	94

問題内容

観点名	正答率	正答率	正答率グラフ(平均)	平均	正答率
1 身のまわりの現象	9/10	90	▼	90	90

外国語理解の能力

二重線
...市平均
一重線
...あなたの成績

言語や文化についての知識・理解

外国語理解の能力

英語

観点別到達度チャート

学習アドバイス

「言語や文化についての知識・理解」では、単語や文法についての十分な知識を持っています。その知識を充実させるために、英語学習の実際の場面でその知識を使い、コミュニケーションの能力を高めましょう。

「外国語理解の能力」では、まとまった英語の文章を聞いたり読んだりする力は身につけています。その力を高めるために、テレビやラジオの英語講座を活用するなどして、英語に触れる時間を作りましょう。

問題別正答率

観点名	正答率	正答率	正答率グラフ(平均)	平均	正答率
1 外国語理解の能力	3/4	75	▼	75	75
2 外国語理解の能力	20/21	95	▼	95	95
3 言語や文化についての知識・理解	15/14	93	▼	93	93

問題内容

観点名	正答率	正答率	正答率	正答率
1 単語の読み立て	3/3	100	▼	100
2 語い	4/4	100	▼	100
3 漢字読み	5/5	100	▼	100
4 語彙検定	4/5	80	▼	80
5 対話文読解	2/3	67	▼	67
6 情報文読解	3/3	100	▼	100
7 漢文読解	5/5	100	▼	100
8 英作文	3/4	75	▼	75
9 リスニング	7/7	100	▼	100

「言語や文化についての知識・理解」では、単語や文法についての十分な知識を持っています。その知識を充実させるために、英語学習の実際の場面でその知識を使い、コミュニケーションの能力を高めましょう。

「外国語理解の能力」では、まとまった英語の文章を聞いたり読んだりする力は身につけています。その力を高めるために、テレビやラジオの英語講座を活用するなどして、英語に触れる時間を作りましょう。

問1

問2

問3

問4

問5

問6

問7

問8

問9

問10

問11

問12

問13

問14

問15

問16

問17

問18

問19

問20

問21

問22

問23

問24

問25

問26

問27

問28

問29

問30

問31

問32

問33

問34

問35

問36

問37

問38

問39

問40

問41

問42

問43

問44

問45

問46

問47

問48

問49

問50

問51

問52

問53

問54

問55

問56

問57

問58

問59

問60

問61

問62

問63

問64

問65

問66

問67

問68

問69

問70

問71

問72

問73

問74

問75

問76

問77

問78

問79

問80

問81

問82

問83

問84

問85

問86

問87

問88

問89

問90

問91

問92

問93

問94

問95

問96

問97

問98

問99

問100

問9

I like the library.

There are many books in the library. You can read books about Japanese. You can study a lot of things there, too.

9正(A B C 内) A B C (訂正欄は必ず書き)

領域名

設問の内容

正答率グラフ

平均正答率

正誤

8	1	英作文	条件(付) 英作文	77	75
8	2	英作文	条件(付) 英作文	45	○
9	1	英作文	条件(付) 英作文	10	○
9	2	英作文	条件(付) 英作文	3	○
				11	○

冬休み前に、教育相談や三者面談の機会を利用して、個人票を返却し、一人一人の生徒が学習に取り組む態度や家庭生活での学習のあり方を改善することに活用している。

また、学校や教員が一人一人の生徒の学習状況を的確に把握することにより、指導方法や教育課程の検証・改善を図ることに活用している。